岳連ニュース 宝永

URL:http://www.shizuokam.com

静岡県山岳連盟
〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL(FAX)054-288-7512
編集発行/総務委員会
令和2年11月16日発行
第３３号

一般社団法人設立・団体名称変更
静岡県山岳・スポーツクライミング連盟発足

静岡県山岳連盟は、令和２年度の総会の決議を得て、４月22日を以って、一般社団法人を設立し併せて団体名称を変更した。新名称は「一般社団法人静岡県山岳・スポーツクライミング連盟」として新たなスートをした。

この法人設立、名称変更は、日山協の強い要請を受けたものである。

日山協では、都道府県山岳連盟に対し法人化と団体名称にスポーツクライミングを入れるよう、様々な会議を通じて要請を行ってきた。

最近のスポーツ不祥事多発の要因は組織内のガバナンスに問題があるという。ガバナンスの構築は中央競技団体だけではなく県岳連にも求められている。県内の山岳スポーツを統括する団体として、組織運営の透明性を確保し、ガバナンスの強化充実を図ることは県岳連の使命とされる。特にスポーツクライミングが五輪の正式種目となったことから、県内の統括団体として機能しているか問われているという。

こうした中、日山協では、新たに加盟する団体は法人でなければならないと規定を改定し、法人化必須の波が押し寄せてきた。

法人の選択肢はいくつかあるが、一般社団法人が費用、ハードルの高さから見てお勧めとのことで一般社団法人の設立で進めることにした。

団体名称変更について、県岳連は、オリンピック競技のスポーツクライミングを統括する団体であり、県民からの問い合わせに際し、スポーツクライミングの名称の入っていない山岳連盟に問い合わせするのは好ましい状態ではないとするのが日山協のスタンスで法人化に合わせて名称変更も同時に行うこととした。

令和元年度の総会で法人化の検討を行うことの承認を得て、会長、副会長、理事長で具体案の作成に取り掛かった。

基本的には現状の体制を大きく変更しない形での法人移行をベースとした。例えば、常任理事（会）は理事（会）と読み替え、専門委員会は現状に高体連を追加し、一部の名称を変更した。ただ、会計は法人会計基準があり、ＮＰＯ会計基準を採用することとした。従前と全く異なる会計で若干の戸惑いが生ずる恐れもある。

定款、規定類の草案作成は滝田会長が担当し、それをもとに３役で検討し、常任理事会の承認を求めながら作業を進めた。また、定款の公証役場による承認手続き、設立登記の申請など法人設立の事務処理を滝田会長自ら行っていただき、一般社団法人の設立を主導していただいた。

法人化によりガバナンスの強化、充実を図り組織の社会的信用力の向上に努めつつ、登山・山岳・スポーツクライミングの普及振興をより一層推進することとなった。

（木ノ内高嘉）

未来に残そう美しい山河
第３回南アルプス写真展



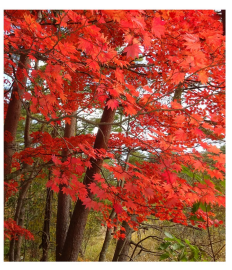
山の日記念行事の第３回南アルプス写真展を11月５日に見学してきた。これは静岡アート&ネイチャーフェスティバル「未来に残そう美しい山河　南アルプスは静岡の宝」の参加団体として、県内山岳４団体（静岡県岳連、静岡市岳連、ＪＡＣ静岡支部、静岡県勤労者岳連）で写真展を開催しているもので、今回で３回目となった。

会場は静岡市役所にある「静岡市民ギャラリー」第４展示室で、期間は11月３日～８日まで展示時間は午前10時～17時、最終日の８日は16時で終了する。

展示ブースは主催４団体毎に、趣向を凝らして展示されていた。

展示されている写真の点数は１２６点ほどで、予想以上に多くの作品数で驚いた。今年からは県外から撮影された南アルプスの写真も出品対象となり、いろいろな方向から写した写真が印象的であった。

（前川朝夫）



五色沼

高校クライミング競技会
男子鈴木選手、女子河島選手優勝


女子優勝河島選手

第21回静岡県高等学校クライミング競技大会が、第11回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の予選を兼ねて、11月３日（火）に、スクエアクライミングセンターにて行われました。７校17人（男子11、女子６）の生徒の参加があり、昨年（16名）に次いで少ない参加数でした。コロナ禍で無観客対応の実施でしたが、代表枠をかけて熱戦が繰り広げられました。

女子の予選は、５番壁で中盤から悪く河島さんと中里さんが最高到達点をマークし１位通過（グレードは12ｂ）し、４名が決勝進出。男子予選は、６番壁をスタートしメイン壁に進むルートで鈴木君が的確な登りで完登。６名が決勝に進んだ（12ｃ）

女子決勝は、ラインは男子予選と重なるラインで、河島さんが粘りのクライミングで上部に入り手を出してフォール（12ｂ）後続の選手はこのポイントを超えられず優勝が決まった。

男子は、メイン壁中央から左右に動きのある距離の長いルートで持久力とともにボルダー力も必要なルート（12ｄ）で、鈴木君が全国大会入賞の力を示し、予選に続く完登で完全優勝を果たした。

なお、12月26日・27日に埼玉県加須市で行われる全国大会は、参加人数削減のため学校対抗枠が無くなり、個人戦のみになったのは残念ですが、代表選手の本大会での健闘を期待したいと思います。会場を提供していただスクエアさん、セットを担当していただいた瀧浪さん、および運営に協力してくださった多くの方々に感謝申し上げます。


男子優勝鈴木選手

全国大会出場者は以下の通り。

【男子】１位　鈴木音生（静岡翔洋・シード選手）
２位　外岡啓太朗（知徳）
３位　池田鋼史（静岡翔洋）

【女子】１位　河島彩葉（浜松日体）　２位　中里溪夏（三島北）

（諸戸　明）

安倍奥の名山、八紘嶺・山伏へ
第14回スポフェス登山大会


山伏山頂

本年度の第14回しずおかスポーツフェスティバル登山大会は、「山の日記念ふるさとの山を登ろう」をテーマに、安倍奥山域で10月18日に開催された。コロナ禍での感染防止対策のため、例年の１泊２日のコースを日帰り登山に変更し、Ａコース山伏に14名、Ｂコース八紘嶺に16名の参加者が、晴天の梅ヶ島草木の多目的広場に集まった。

静清高校の高校生の参加もある中、開会式では、本格的な観光シーズンへの期待を語る梅ヶ島連合自治会長様や梅ヶ島交番長の挨拶をいただき、その後、Ａコース、Ｂコースとも自家用車で登山口へ移動した。


開会式

前日の雨が、澄み渡る秋空を運んできたかのように、秋めいて色づき始めた稜線がきれいに浮かび上がっている。山伏の西日影沢コースは18年９月の台風で登山口までの林道路肩が崩壊し、登山道の橋も流失する被害が発生していた。その後の道路復旧を始め地元の登山愛好家の尽力で、沢には流失した橋の代わりにドラム缶や板が渡されるなど登山道も整備され、蓬峠手前の崩壊地も踏み跡がはっきりしており、今回の登山では支障がない状況となっていた。

登り始めは青空が出ていて、大変暑い山行となると予想されたが、次第にガスが湧いてきて、曇り空の下での山行となった。山頂からは、前日の雨で雪化粧になっていた富士山とともに、やや紅葉が始まりかけている周辺の山々が眺望でき、確実に秋が深まりつつあることを実感した景観でした。

今回は、Ａコースの到着が予定より遅れ、Ｂコースの閉会式とＡコースの閉会式が２部構成で行われましたが、登山大会のスタッフの皆さんのおかげで参加者が無事登山することができました。ありがとうございました。又来年、大井川地区でお会いしましょう。

（鈴木雅春）

	男子		女子	
1位	鈴木音生	静岡翔洋	河島彩葉	浜松日体
2位	外岡啓太朗	知徳	中里溪夏	三島北
3位	池田鋼史	静岡翔洋	廣井真菜	市立沼津
4位	柿本琉希	浜松日体	伊藤奈々葉	浜松日体
5位	山本玲梧	浜松日体		
6位	坂倉乙彰	浜松学芸		

山岳会紹介

島田しらびそ山の会

会長　加藤　弘司

島田しらびそ山の会は１９７５年11月17日に創立しました。創立メンバーは前岳連会長の田中克己氏や細田芳郎氏等の７名でした。

現在の会員数は30名ほどで、30代から80代と幅広い年代層で活動しています。

若い会員のＳＮＳやホームページの影響で、新入会員も多く本年度も４名ほどの方が入会しました。

会の山行はリーダー会が中心となって企画し、年間スケジュールが月例山行を主に組まれています。

会創立以来、オールラウンドの山行をモットーに一般ハイキングから縦走・沢登り・藪山・岩山・雪山・アイスクライミングとバラエティに富んでいます。

また、個人山行も活発で昨年度は計画書が提出された山行は200回を越えています。

しかしながら、今年はコロナ禍の影響で春先から初夏までは月例山行・個人山行ともに実施することが困難となりました。緊急事態が解除されてからは、三密を避ける山行を各自の判断で再開しています。

当会は山行以外に色々な活動を行っています。まず、毎年発行している会報「しらびそ」は、１９９８年の創刊号は30ページほどの簡単な記録集でしたが、近年は100ページを超す年もあるものになりました。これは、何号か発刊した頃に外部の方から「いいね！」という声が聞こえるようになり、読みやすい会報を目指して現在の形になりました。

また、春先には「山の写真展」を行っています。山での感動を一般の方にも伝えたいと思い毎年開催しています。この写真展で好評だった写真を中心にして作成した「しらびそカレンダー」も毎年発行するようになりました。

そして、当会では月例会とは別に勉強会を開催しています。「山の寺子屋」と称したこの勉強会も２００１年11月から継続しています。前田中会長の「飲み会でない反省会を実施すべきだ」との教えを守り、現加藤会長を中心に座学では「事故事例と遭難対策」「山の救急法」「山での食糧」「山の気象」「山の装備」「地形図と地形」そして「山の自然（花・鳥・きのこ・動物）」等多岐のテーマを会員が講師となり学んでいます。

実技では、富士山での雪山トレーニング・立岩での岩トレ、そしてしらびそのホームグランドの家山川小谷での沢登り等を中心に安全登山を目指しています。

これからも、田中前会長・細田さんから受け継いだ島田しらびそ山の会のＤＮＡ（伝統）を継続して楽しく安全に山に登っていきたいと思っています。

（文責・鈴木　修）

クライミングコンテスト9月大会

小学生女子の活躍が顕著

令和２年度の１回目のクライミングコンテストが、秋風の中９月22日に浜松スクエアで実施されました。

本年度は、コロナ感染の渦の中、実施が危ぶまれましたが、予選は密を避けるためオンサイトからフラッシュにし、会場内は無観客対応などで実施にこぎ着けました。リードには男子24名、女子20名の昨年を上回る参加がありました。

女子予選はメイン壁の左側を登るルートで消耗した上部に核心をもつ（12ｃ）。今回初出場の小学６年生の堀内優里さんが唯一の完登を決め、６位タイまで８名が決勝に進出。男子予選は、６番壁からルーフの最大傾斜を抜け、上部の核心につなげるルート（12ｄ）で３名が完登し上位６名が決勝進出。それぞれルートセット後、決勝は例年通りオンサイトで行われ、女子決勝（12ｂｃ）は傾斜の強い中盤のあと、距離のあるホールドが連続する上部核心に入るルートで、堀内さんが予選に続いて唯一の完登をつかみ取った。２位には終了点を取りに行った永嶋さん、３位には井川さんが入った。男子予選は最初からダイナミックな動きを交えた消耗するルート（13ａ）で鈴木音生君が、堀岡君、鈴木大翔君が達したポイントを安定した登りで超え完登を勝ち取った。



男子リード

今大会の印象は、セッター講評のように男女とも上位層のレベルが高かったことと、女子小学生の台頭が著しかったことです。女子の優勝した堀内さん、３位の井川さんをはじめ、決勝進出の８名のうち５名は小学生でした。このような大会の延長に県の競技力が上がり、更にその上のレベルに進む選手が出ることを願っています。

会場を提供していただいたスクエアさん、遅くまでセットに携わっていただいた瀧浪さんには大変感謝申し上げます。

【成績】

男子リード

１位　鈴木音生（静岡翔洋高）２位　鈴木大翔（焼津豊田中）

３位　堀岡隼人（静岡東中）

女子リード

１位　堀内優里（藤枝大洲小）　２位永嶋美智華（焼津東益津中）

３位井川　栞（沼津今沢小）

（諸戸　明）



第１回理事会

日時　令和２年７月６日（月）18時30分～20時00分
会場　静岡県男女共同参画センター「あざれあ」５階
出席者　理事　18名中13名　監事　２名中２名
理事　滝田博之、鈴木重幸、木ノ内高嘉、大石幸男、鈴木修、鈴木雅春、内海廣治、工藤誠志、兼子猛、加藤敏美、難波利行、諸戸明、前川朝夫
監事　高橋弘、塩澤寿雄，滝田会長
その他　市川隆夫
挨拶　滝田会長
法人化手続きの完了、経理関係処理について、岳連旗の扱いや理事会等組織関係を報告した。なお、定款では理事会の議長は会長となっているが従来通り、理事長にお願いしたいと発言された。

１報告事項

(1)各委員会の報告
・指導委員会、競技委員会から報告。

２協議事項

◆指導委員会の事業計画。
(1)各委員会の事業計画。
・登山教室について　実施の方向で進めている。
バスの手配、岳連で会費の補助をお願いしたい。
・日山協指導委員総会出席報告あり。
・アルプス登山指導関係について実施の方向
・冬山安全登山講習会等は、新型コロナウィルス感染の様子を見る。

◆競技委員会
・新型コロナウィルスのため国体県予選会、東海ブロック大会、鹿児島国体が中止となった。

◆国際委員会　欠席。
(2)令和２年度スポフェス
滝田会長から説明
期日　10月17日（土）～18日（日）
場所　山伏と八紘嶺
コース
Aコース　10月17日（土）～18日（日）１泊２日　40名、Bコース　10月18日　日帰り　40名
(3)鹿児島国体（東海ブロック大会（諸戸委員長）
新型コロナウィルスのため中止。
(4)東海ブロック正副会長理事長会議（滝田会長）
新型コロナウィルスのため中止。
(5)令和３年県岳連カレンダーの作成・販売（滝田会長）
前年に比べ今年度は、経費が１，０８０円となり、販売価格を１，６００円としたいが如何か。
協議の結果、昨年と同様の１，５００円とすることに決定。
デザインは「世界の名峰」とする。市岳連が「日本の山」のカレンダーを作成しているため。
(6)個人会員の募集（滝田会長）
個人会員がなかなか集まらない。
(7)その他
高橋監事：ストックの使用者が多くなった。高山植物悪影響を与える恐れあり。ストックは捨てられる様に持つのが基本。
内海理事：八高山周辺の大規模開発について説明。

（前川朝夫）

第２回理事会

日時　令和２年９月14日（月）18時30分～20時00分
会場　静岡県男女共同参画センター　あざれあ　５階
第五会議室
出席者　理事　18名中17名　監事　２名中０名
理事　滝田博之、鈴木重幸、前川朝夫、木ノ内高嘉、堀内修、工藤誠志、望月喜久治、増田浩二、赤堀正、出利葉義次、大石幸男、鈴木修、鈴木雅春、兼子猛、内海廣治、難波利行、諸戸明、
監事　欠席
挨拶　滝田会長
事業として、宿泊を伴う夏山・秋山登山教室を中止。スポフェスは、感染対策を行い、日帰りで実施。経理関係について、秋山登山教室中止に伴う９月補正を行う旨を報告した。日山協のブロック研修会は、本部から開催の依頼があり、実施予定との報告があった。

１報告事項

(1)各委員会の報告
報告なし。

２協議事項

(1)令和２年度のスポフェス
望月市岳連会長が実施要項を説明
期日　10月18日（日）
場所　山伏と八紘嶺
Aコース　山伏　20名
西日影沢～蓬峠～山伏
日帰りピストン
Bコース　八紘嶺　30名
梅ヶ島～富士見台～八紘嶺　日帰りピストン
・コロナ対策を考え、例年の一泊二日のコースは中止し、全て日帰りとした。現地駐車場（100台）集合
・遠方より参加の方は、梅ヶ島温泉の宿泊を案内する。
・兼子理事からスポフェスの宿泊を避ける指示が来ているのかとの質問があり、会長からは、特に指示はなく、担当地区での判断。
(2)講習会、セルフレスキュー研修会等　（工藤委員長）
・ハイキング、縦走リーダー講習会（１月16日）は初・中級レスキュー講習会を合わせた形で検討中。
・指導者研修会（１月31日）天候の急変への対応等を計画。
・セルフレスキュー研修は遭難対策委員会と一緒に実施の方向。
・雪山登山教室は、コロナ対策でマイクロバス利用が不可となると、参加者が個人で現地集合となる。初級者には雪道走行が困難だと予想され、参加者数の見通しが立たず実施すべきかどうか思案している。。
(3)第21回静岡県高等学校クライミング競技大会
（諸戸委員長）
11月３日開催、要項の説明。全国選手権の県代表選考大会を兼ねた大会である。
(4)第21回竜爪山岳競技会（鈴木副会長）
12月13日開催、要項の説明。複数の理事から、参加者の上限、男女数の設定や感染対策への意見があり、最終的に要項を変更し、参加者制限を見直す。
(5)その他（滝田会長）
・令和３年県岳連カレンダーの作成・販売千５百円で各団体購入を要請。
・９月補正を実施。事業中止により収支を調整。。
・南アルプス写真展　３回目となるが、県岳連の出品が少ないので各団体の出品をお願いしたい。
・日山協の総会資料は別添のとおり、第59回全日大会が千葉県で開催。

（鈴木雅春）